

図書館と同機能を持つ場の選択 読書機能に焦点をあてて

豊島 嶺奈

従来図書館が提供してきた機能（例えば読書をする場を提供する機能や、本や情報を提供する機能）は、図書館以外にも書店や書斎、インターネットなどが果たしている。現在では店内にソファやカフェを設置する大型書店など新しい形で本や情報を提供する場も登場してきた。また図書館自体も外部に運営を委託し、開館時間の延長やカフェの併設など変化が見られる。このように読書をする場（以下、「場」とする）の選択肢が増えている中、人々がどのような理由で「場」の選択を行っているのかに興味を持った。

本研究では、図書館の機能の中でも読書機能に焦点をあて、「場」として図書館以外にどのような「場」が選択されているのか、選択の理由は何かを明らかにすることを目的とする。また、読書の際に、人々がどのような「場」を選択するかは、教育や育ってきた環境などによるライフヒストリーが影響しているという仮説をたてる。

読書機能に関する先行研究としては、富山(1999)や永嶺(1993)の論文があげられる。これら2つの論文は「読書機能」について言及したもののだが、「場」を主体的に選択できる現代の読者がどのように選択しているかについては明らかになっていない。

本研究では大学生を主な対象とする。調査対象者に対し、図書館・書店・家・飲食店・移動に使う乗り物の5つについて、利用時間や利用頻度、選択理由を尋ね、さらにどのような理由づけで「場」の選択が行われているかを明らかにする。

大学1年生を中心とした計13名に調査した結果、「場」として先述の5つの「場」に加えて、カフェ、教室などがあげられた。また、全員のインタビュー結果からコーディングして抜き出したキーワードにKJ法を用いて分析した結果、読書の体系は、読書そのものが目的となるコンサーマトリー、読書が手段として別の目的があるインストルメンタルという2つの体系に分かれた。同時に「場」の選択に影響を与えている要素について分析したところ、ライフヒストリー、読書に関する諸行動、選択の理由（集中したい・空間が好き・場にこだわらない）の3つに分類され、なかでもライフヒストリーが「場」の選択に大きく影響していることが明らかになった。また、「場」の選択の理由に関しては、目的があり「場」を選択する目的合理的行為、そこに行く気持ちが優先される感情的行為、読書が第一目的である習慣的行為の3つに分類できた。この中でも目的合理的行為を基に「場」を選択している人々がライフヒストリーに最も影響を受けていることが結論づけられる。

なお、感情的行為に示されるように場所の選択を最優先し、そこから読書が始まるように場所ありきで行為を選択する人が一定数いたということは新たな知見であった。「場」を先に選択するという視点から図書館やその他読書空間を言及していくことも今後の研究課題としたい。

（指導教員 後藤嘉宏）